

# 松原の大坂夏の陣と真田幸村

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)

## 松原歴史ウォーク

vol.226



▲来迎寺手桶のリーフレット (長野県・真田宝物館) 真田宝物館で12月まで開催の「戦国の絆」で来迎寺手桶・柄杓が展示された (4月4日まで)。2014年秋には大阪城天守閣の「浪人たちの大坂の陣」でも展示された。



▲大坂の陣で難をのがれた来迎寺本尊の阿彌陀如来像 (来迎寺本堂安置)



▲高木正次が戦利品とした六連銭紋黒塗手桶と柄杓 (丹南3丁目・来迎寺蔵)

### 下高野街道・竹内街道進軍か 城連寺・松原・丹南村の戦禍

NHK大河ドラマ『真田丸』の放送で、真田幸村こと、信繁ゆかりの上田(長野県)や九度山(和歌山県)とともに、大坂の陣の舞台となった大阪市内や河内地方も真田ブームで多くの人がウオークを楽しんでいます。あらためて幸村の人氣に驚かされます。ただ、幸村の名で知られていますが、これは江戸時代の軍記物作者がつくったとされ、史料の上では信繁と記されています。

徳川家康が豊臣秀頼を滅ぼした大坂の陣は、慶長十九年(一六一四)の冬の陣と、翌二十年(一六一五)の夏の陣をいいます。豊臣方の信繁は夏の陣の五月六日、大坂を出て、大和(奈良県)から進攻する徳川方を迎え討つため、先に出発した後藤又兵衛の後隊として、菅田八幡宮(羽曳野市菅田)付近に着陣し、応神天皇陵(菅田御廟山古墳)あたりで伊達政宗隊と戦いました。

真田隊は優勢でしたが、同日、八尾・若江(東大阪市)の戦いで豊臣方の長宗我部盛親や木村重成が破れたことを聞き、やむなく豊臣方のしんがりとなって、大坂城へ後退しました。翌七日、信繁は茶臼山(大阪市天王寺区)に陣を置きましたが、近くの安居神社あたりで戦死したの

です。まもなく大坂城も落ち、徳川氏の勝利で終わりました。

ところで、兵三千余といわれた真田隊が河内へ向ったルートは、四天王寺から下高野街道を利用して美章園(阿倍野区)や田辺・矢田(東住吉区)を経て、地域の城連寺村(天美北)に入り、天美・布忍地域を南下して、岡・立部村の竹内街道を通り、東進して羽曳山から戦場に向ったのではないのでしょうか。

寛延二年(一七四九)七月の『河内丹北郡城連寺村明細帳』などによると、城連寺村が「元和二辰年(慶長二十年の翌一六一六年)、是ハ戦場にて村方作付ハ勿論住居仕兼」と記し、下高野街道が通る当地が戦場となって田畑の作付はもちろん、居住もままならなくなつたと嘆いています。真田隊によつて焼き払われたと思われま

す。竹内街道沿いにあたる松原村岡・新堂・上田や丹南村でも、多くの寺社が焼かれたようです。元禄五年(一六九二)十一月の松原村の『寺社帳』に岡の弁財天や岡・立部両村立会の正井殿、新堂の十二社権現社、上田の柴籬神社などが「慶長年中ニ炎焼仕」「寛永年中ニ再興」されたとあります。夏の陣で焼かれましたが、寛永年間(一六二四〜四三)に再興されたと考えられます。

丹南では、真田隊によつて丹南天満宮などが焼かれ、融通念仏宗の来

迎寺の本尊の阿彌陀如来像も難に合うところでしたが、機転によつて持ち出され無事であったと伝えられています。来迎寺は大坂の陣で徳川方として参戦したあと大名となり、丹南に丹南藩を立藩した高木正次が菩提寺とした名刹です。

正次は七日の夏の陣の布陣図を見ると、平野と天王寺を結ぶ奈良街道(国道二十五号線)の南側に、井伊氏・藤堂氏らと並んで「高木主水」として配置されています。高木隊は真田隊と交戦したらしく、現在、来迎寺には正次が戦利品として得たと伝える真田家紋の六連銭の手桶と柄杓が所蔵されています。手桶は高さ五三・〇cm、幅四一・五cm。柄杓は長さ四八・七cm、径一四・五cmを測ります。初代丹南藩主高木正次が、戦功の証としたもので、松原における高木・真田両隊の歴史を物語っています。

なお、真田隊は六日、菅田からの帰途は津堂(藤井寺市)を経て、地域の小川村・若林村を横切る古市街道(大坂街道)を通つたようで、志紀長吉神社(平野区)付近で休憩したと伝え、同社には信繁奉納という軍旗や刀剣が現存しています。

夏の陣で松原が主戦場になつたわけではありませんが、少なからず真田隊の進軍によつて、地域の村々も大きな被害を蒙つたのです。